



京都華頂大学は令和6年度に学部・学科改編を計画しています。



2024（令和6）年4月に向けて、新しい時代における家族・家庭の在り方を人間の生活構造という空間的な横軸とライフデザインという時間的な縦軸から、衣食住生活、子育て、消費、家計、情報、福祉、地域・社会との関わり、情報通信技術の活用などの身近な生活課題にアプローチする **1学部3学科構成**への改編を計画しています。

学生一人ひとりが人生設計を見据えながら、生活者と職業人双方の立場にたって、個人の意欲と能力に応じて多様な生き方を選択できる豊かで活力ある男女共同参画、多文化共生社会推進の担い手となる人材の育成をめざしていきます。

③設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります



1 生活情報学科

「Web を使いこなせる社会人」であることは、新時代の運転免許証のようなものです。インターネットなどの情報革新が進み、個人や家庭の生活は大きく変化しています。家庭科教諭（中学・高校）免許に加え、経済をはじめとする社会の知識を身につけ、行政や企業が必要とするコミュニケーションツールとしてのデジタル・スキルを活用できる、生活に根差した職業人女性をめざします。（入学定員 40 名）

2 こども生活学科

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭（または社会福祉士受験資格）の3つの国家資格を同時に取得することができます。毎日を生きるこどもの背景には、家庭・家族の生活があります。教育・福祉・保育を実践的に学んで、こどもはもちろん、こどもを取り巻く環境の課題を解決する力を養います。一般企業を含めた、幅広いこども家庭分野で活躍できる人材を養成します。（入学定員 60 名）

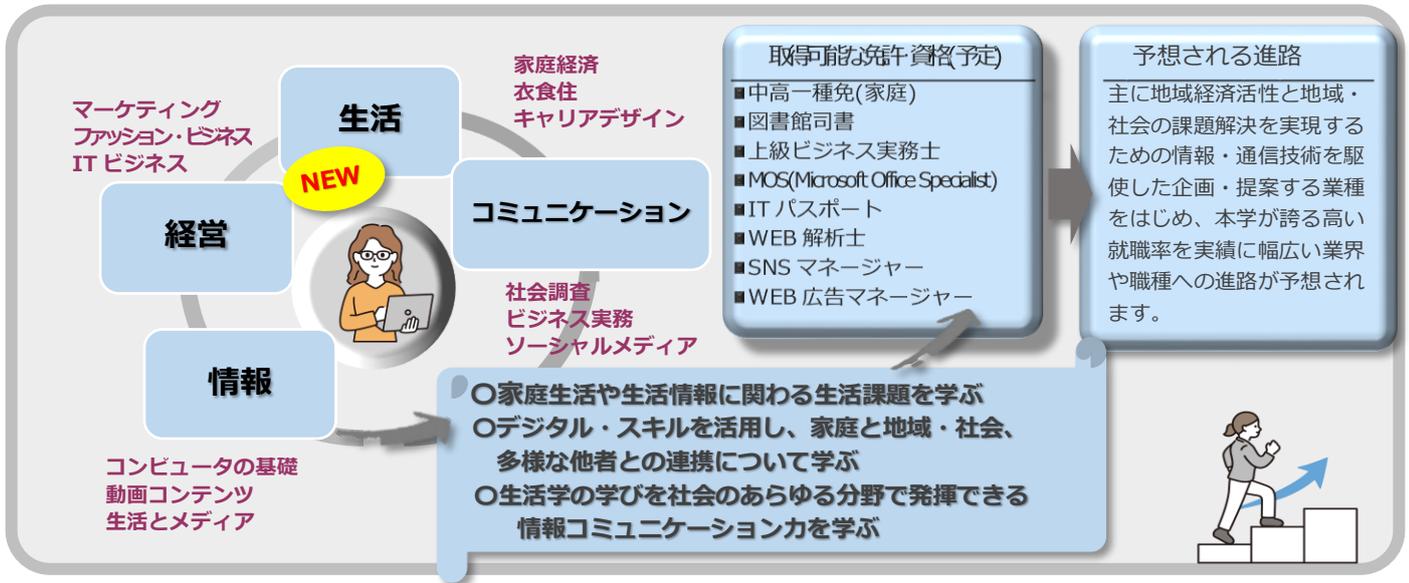
3 食物栄養学科

「管理栄養学専攻」では、健康長寿社会の実現に貢献できる管理栄養士や栄養教諭を養成します。「食文化専攻」では、食生活に欠かせない文化や環境について幅広い知識や技術を学びます。専攻の決定は入学後ですが、いずれも健康の維持・増進に向けた栄養指導ができる高度な専門知識と技術を身につけます。調理だけでなく、食育、生活習慣病の発症予防、地産地消、SDG's など現代の食物と栄養の課題に取り組む人材を養成します。（入学定員 60 名）

現代生活学部

家政学はこれまで、『衣食住』を中心とした家計や家族の暮らしについて研究してきました。しかし、今や女性の社会進出が進み、仕事と家庭生活の調和は共通の課題となっています。「生活」の視点が重視される今日、子育てや消費、経済、福祉、教育、衣食住生活などライフステージごとの生活課題を対象に情報を生かして体系的に学修するため、学部名称を新たに3学科体制にして、生活者の視点を備えた社会人・職業人を養成します。

『生活情報学科』の学びイメージ



『こども生活学科』の学びの特長



『食物栄養学科』の学びの特長

